

ネットワーク 長野県史料協

- ・創刊号にあたり、正副会長からの論考
- ・史料保存活用の動向 県内四地区から
- ・史料保存のコツ 接着剤

公文書館のもつ役割

会長 市川健夫

欧米先進国では、地方自治体単位で公文書館が設置されている。公文書館は封建領主から自由都市が独立した歴史的経緯で、自治権を付与した文書を保管する機関として設けられた。この公文書館は公的行政文書のみでなく、私的古文書を併せて所管している。

日本においては第二次世界大戦後、府県史、市町村史などの編纂事業が各地で盛んに進められた。その過程で蒐集された公文書などの歴史資料を保管し、その情報を公開する文書館・資料館を設置した地方自治体が出てきた。松本市文書館はその先駆的な存在であるといえよう。また国においても国立公文書館を設けて、地方文書館活動を支援している。1994年に開館された長野県立歴史館においても、公文書館的機能が併設されている。

現在県立歴史館には、近代の公文書が10,800点も保管されている。廢藩置県後、長野県庁文書の書庫は火災と戦災に合わなかつたため、貴重な史資料がいくつか遺されている。1874年(明治7)信濃国安曇郡野口村(現大町市)と越中国新川郡芦嶺寺村(現立山市)とを結ぶ22里の「信越連帯新道」の開さくに信越の有志が着手した。わが国第2位の高さ(2541m)をもつ針ノ木峠越えの車道計画は、政府に入れられず完成をみなかつた。この新道計画書と地図は歴史館で保管されている。富山県庁には信越連帯新道の史資料はまったく残されていない。そこで『富山県史』は長野県庁文書によって、新道開さくについて記述されている。

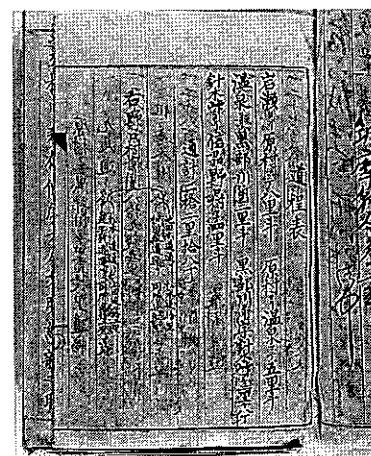
このように多くの貴重な公文書を大量に所蔵している県立歴史館ではあるが、未だにいくつかの基本的県政資料を欠いている。たとえば、「長野県統計書」は1882年(明治15)以来刊行されている。長野県立図書館に

は創刊以来の県統計書、また総務部情報政策課には、1883年来の県統計書が所蔵されている。しかし、歴史館には存在しないのは、明治時代の県庁文書には、印刷物になったものは入れなかつたからである。

1878年(明治11)から「長野県勧業年報」が刊行されている。県統計書より古く、かつ産業経済についてのコメントがあるので、貴重な資料になっているが、県の機関で所蔵しているところはない。私は県政史編纂当時、明治時代県議を務めていた大町市の栗林家に所蔵されていた勧業年報を若干お借りしてコピーした。このコピーは県立歴史館に保存されている。

長野県農協中央会には、1899年(明治32)以来の「長野県農会報」が全巻保有されている。柳田国男が書いているなど、20世紀初めからの長野県農業を知るに欠くことができない資料になっている。また長野県農会は1904年(明治37)各郡で典型的な町村を選び、「村是調査」を実施した。明治維新後から産業革命期に至る農村の変容を詳しく調査している。私は「長野県上高井郡日野村是調査」を持っている。ところが、一つ橋大学には長野県下川路・田立・若槻・共和など諸村の村是調査が所蔵されている。以上のような県統計書・勧業年報・長野

県農会報・村
是調査などの
コピーを入れ
ることが是非
必要であると
考えている。



「信越連帯新道起功之部」(長野県立歴史館蔵)

地域に史料をのこしていくために

副会長 小松芳郎

はじめに

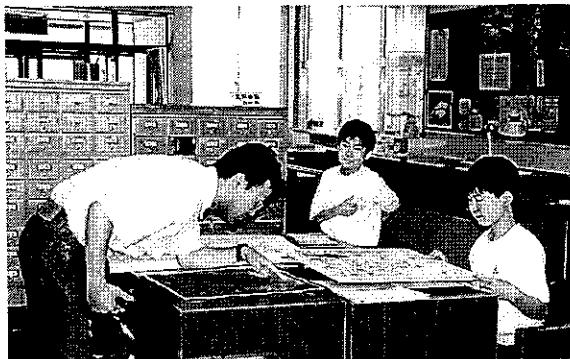
昨年6月1日に発足した長野県史料保存活用連絡協議会は、「公文書館法の主旨に基づき、県及び県内の市町村が保管している公文書等及び地域に伝存する古文書・記録類を歴史資料として保存活用することに関して、会員相互の連絡と連携を図り、もって行政の円滑な推進及び地域文化の振興に寄与することを目的」(会則第2条)としています。

ここでいう「公文書館法の主旨」とは、昭和62年に公布された公文書館法で、「国及び地方公共団体は、歴史資料として重要な公文書等の保存及び利用に関し、適切な措置を講ずる責務を有する」(第3条)とあるように、「公文書等」(公文書と私文書)の保存利用を求めたものです。

史料保存を誰のために

長野県内には、「歴史資料として重要な公文書等」を保存している機関がいくつかあります。個人で保存している家は数多くあります。今後とくに公的機関で保存している場合は、住民のために保存しているということを、再認識しなければならないと思います。国民のため、県民のため、市町村民のために保存しようとしているわけです。この11月にでかけた九州のある市で、廃棄される公文書を移管しようとして、公文書は誰のものだと職員に聞いたら、部や課のものだという答えが多かったそうです。長野県でのオリンピック関係文書廃棄の問題にしても、「誰のために」という認識のずれを感じます。

個人が保存している歴史資料にしても、その保存環境を見なおしたり、整理のありかたを見なおしたり、後世にどのように伝えていくのかというようなことを、ともに考え



教師とともに写真と地図を読む小学生

ていくことが求められています。

保存に関する専門的な知識や技術もまた必要となってきます。専門分野に詳しい会員や機関に助言をうけながら、保存していくことも必要です。

史料活用は誰のために

歴史資料として重要な公文書を保存している文書館的施設の場合は、いつでも、だれでも活用できます。研究者だけにとどまらず、住民にひろく活用されていくことが大切です。保存された資料を調査・収集しての自治体史編纂などもおこなわれていますが、編纂もまた住民のために、ひらかれたものであるということはいうまでもありません。



史料保存と活用の学習会（松本市文書館）

保存と活用の情報交換はいつでも

本会の会則では、会の事業として、①歴史資料の保存活用に関する研修会・調査研究、②情報の交換、③会報等の発行などがあげられています。

保存し活用していくことを、ひろく住民にしらせて行くために、通信手段を講じたり、講座や研修会を開いたりしていくますが、まず、私たち会員が連絡と提携をはからって、保存と活用の情報交換をしていきたいと思います。歴史資料として重要な公文書・私文書を地域に、長野県下に遺していくために、その保存と活用について、相互の情報交換をしあって、自分たちの居住する地域に還元していくための会であると、私は考えています。

おわりに

協議会に集まる機関会員や個人会員の多くは、どちらかといえば、史料を管理する側にたっています。私は、活用する側からも考えていきたいと思っています。

講演会「史料保存の基礎」

国文学研究資料館史料館 青木睦氏



講演の様子(小松芳郎氏撮影)

4つのキーワード

保存と修復;なぜ修復が必要なのか、他にもないか、保管条件を変えていくことも。

環境;害虫の駆除に対して、臭化メチルのオゾン層破壊、酸化エチレンの発ガン性などの問題に対してどう対処するか。私たちの命? 子孫の生命は? 史料をのこすためにオゾン層の破壊がどんどん進行してよいのか? 地球の中で人やモノと、人間の記録を残していくという作業のなかで一つの歯車として活動していることを忘れてはならない。

<話の柱>

1 史料を保存・保護するための包材、中性紙の包材はどんな効果があるか。どのように材質の評価をしているのか、の調査事例の紹介

2 虫がついた・カビが生えたときの燻蒸。臭化メチルの使用ができなくなってくる。有効な薬剤が使えなくなっていくので、どうしたらよいか。

保存活動に従事するにあたっての基本的な考え方、保存方法を選択するにあたって守らなければならぬ原則

1. 包材をどうするか

◇写真の裏の接着剤にふさわしいもの

✗ Pritt(ドイツのHENKEL社の製品をKOKUYOが販売)

✗ ヤマト糊

○ CMC(カルボキシルセルロース)

○ MC(メチルセルロース)

◇ラベル用インクとしてのレーザー・プリンター

試験をしながら、表面の観察を続けながら、レーザープリンターで印字したラベルを使用している(史料館)。

◇ノンバッファー紙

アルカリを押さえてある。直接あたるところ(例えばスリット・しおり)に使用するとよい。

◇中性紙

2%のアルカリを含まないと永久耐久紙とは認められない。

◇中性紙封筒

外の酸性の雰囲気が近づいてきても、中性紙の弱アルカリの雰囲気で中和して、中まで

2. 燻蒸のこれから

◇紙の敵はシバンムシ類、ゴキブリ、ネズミ。シミ類は軸物の絹本(動物性)、版本をなめる。

◇初期燻蒸の必要かどうかの状況判断をする。

◇虫は春先に出てくるので、卵を産ませないよう史料に近づけない。網戸を利用する。

◇カビの活動は湿度を70%以下にすれば、生息が止まるので、65%以下を目指す。

◇燻蒸剤:フッ化サルフルリルなど。ミストは史料に影響あり。

◇燻蒸剤以外の方法

人;地域の皆さんのが、地域史料の保存の担い手として頑張っていただかなければならぬ。地域で保存をされている方々の判断の間違え(例セロテープ)今は大丈夫そうにみえるけど10年20年100年1000年先は大丈夫かが皆さんの判断にかかっている。

保存と科学;裏付けとなる検査を行い、現時点で正しいと思って伝えるが、判断を悩むことや間違えを伝えることもある。

強い酸とか大気汚染物質を届かせない効果。中性紙のなかには炭酸カルシウムがあまり入っていない、酸性紙の元凶となる硫酸アルミニウムの多いものがある。

◇AFプロテックス(史料保存用包材)

硫酸アルミニウムが検出されない。販売前に検査をしているメーカーから取り寄せることが大事。

◇中性紙(弱アルカリ紙)の使い方

本の間に挟みっぱなしは不適、影響が出る。しかし酸性紙を挟み込むよりずっとよい。まわりからの酸性物質や大気汚染物質をはねのける。

◇紙製容器(保存箱)

湿度変動を押さえる効果がある。調湿紙は短期的湿度変化に効果的。ホコリやチリに含まれるカビの胞子を防ぐ。酸性紙化する紙の酸性化を押さえる。包むことで湿度の制御ができる。

・脱酸素剤(文化財用RP剤を使用、1か月封入すること。半年・1年そのままも可能である) 東大和市の民家の事例がある。

・二酸化炭素(ベンガラ、朱など顔料を変色させる)

・トラップ(モニタリングして判断するため)

・窒素封入(環境にやさしい。3週間封入する)

(以上は講演の要旨をまとめたものです。)

文責:梅原康嗣

<参考文献>

「文書記録の管理」『今日の古文書学』 第12巻史料保存と文書館所収(雄山閣)



講演会2000.10.13
(小松芳郎氏撮影)

飯田市誌編さん の状況

飯田市誌の編さんは平成9年度から10年計画で進行中である。6部門、8冊の刊行を計画しているが、各部門とも現在は調査・資料収集の段階であり、刊行年は次の予定である。

「美術・建築編」	平成15年度
「自然編」「原始・古代史編」	平成16年度
「中世・近世史編」「民俗編」	平成17年度
「近代・現代史編」	平成18年度

編さん室を飯田市役所上郷支所3階に設置し、常勤者11名と編さん委員、執筆委員等多くの方々の力を借りて進められている。



分布調査のササユリ

自然部門では、環境変化のなかで「自然の今」を調べ、伊那谷の自然の多様性の現状を明らかにし、人と自然の共生をめざしている。市花であるミツバツツジ類の地理的分布や、昔からの水田地帯の植生が残る棚田を取り上げて、植生調査などを行っている。

原始・古代部門では古墳時代の馬生産や富本錢・和同開珎銀錢などから当時の都との関連を整理とともに、この地に住んだ人々の生活実態を明らかにすべく調査を進めている。

中世・近世史部門では現在、古文書調査と史料撮影を重点的に進めている。今まで調査した文書は約93,742点、さらに写真にとった枚数は97,740枚で、所蔵者毎に整理している。県内で最も早く西の文化の影響を受けていた地域として注目される。

近代・現代史部門は旧役場資料を中心に資料収集作業をしており、旧村部にはそれぞれ村史が刊行されているが、今回は全市を貫く政治、経済、社会の流れが明らかになる。

民俗部門は、山間地帯2か所、平坦地帯、商業地帯の集団聞きとり調査や、全市域のお年寄りへのアンケート調査を行っている。おだやかな飯田らしさの原点

飯田市誌編さん室

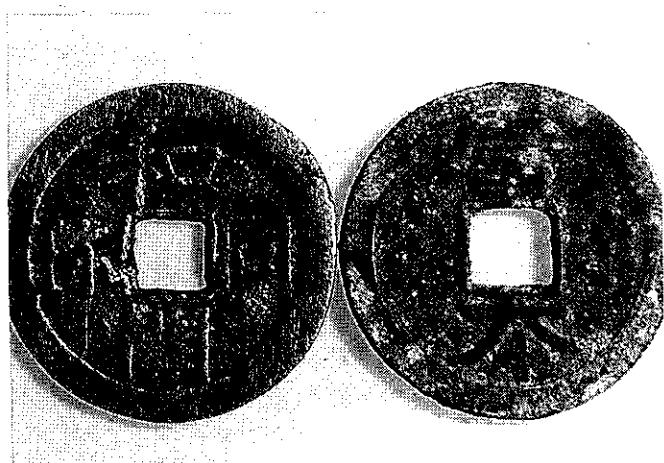
を探っている。

美術・建築部門は飯田に伝わる貴重な美術品や文化財を記録し、一人でも多くの作家の業績を後世に伝えるよう調査を進めている。

飯田市誌編さん事業の大綱には“収集した資料は保存管理し、生涯学習や学校教育に役立てる”としてあり、現在はまだ調査中の段階であり、平成19年度に整理を予定している。

飯田市は県内の自治体で最初にISO14001の認証を取得した。近代・現代部門の資料を収集するなかで、13の旧役場(現支所)には膨大な行政文書が残されており、なお市役所にも多量な文書が保管されている。また個人所蔵の文書も世代交代等で保管が危惧される家もある。飯田市は行政文書を昭和47年にファイリングシステム化し、毎年550箱位の資料が廃棄されている。

環境に配慮した資料保存の計画をたて、実行に移す事が緊急の課題である。



富本錢・和同開珎

上田市立図書館デジタルライブラリーについて 上田市立図書館

○はじめに

上田地域はかつて国府が置かれ、信濃国分寺が建立され、信州の鎌倉とも言われ、古来から文化の中心となってきた歴史のある地域であり、また大正時代に誕生した「上田自由大学」にも見られるとおり、進取の気風に富んだ学習レベルの高い地域です。上田市立図書館は大正12年の開館以来、「花月文庫」を始めとする個人の蔵書コレクションを多数受け入れ、保存・提供してきました。また、上田地域は、早くから地域情報化の一環として公共図書館の情報ネットワーク化に取組み、平成7年から、1市3町による上田地域公共図書館情報ネットワーク(愛称:エコール)が稼働しています。さらに平成9年には、このエコールが母体となり、3か年の文部省委嘱事業「上田地域社会教育施設(図書館等)情報化・活性化推進事業」を推進し、事業の1つとして平成12年、資料保存体制の強化と利用促進を目指して、インターネット上に上田市立図書館デジタルライブラリーを開設しました。現在は貴重資料のデジタル画像や当館が所蔵する代表的な特殊コレクションの一つ、「花月文庫」の目録をOPACで公開しています。

○貴重資料のデジタル画像化

今回のデジタル化に際して当館では、「原資料にダメージを与えない」という事と「デジタル化によって利用しやすい環境をつくる」という2点を目標に作業を進めました。限られた予算の中、実際何をデジタル化するかは、資料保存の観点から利用頻度の高い資料に限定し、その中から結果的には、原資料のままでは閲覧しにくいもの、当館から特に紹介したいものという観点から『御当代記』と『東山道信濃国略図』の2点を選定しました。『御当代記』全6冊は、戸田茂睡自筆の孤本で、歴史の根本資料としては大変珍しい貴重書です。徳川綱吉時代の幕府政治の動向や江戸市中の風俗や天変地異が書かれていて、平成11年に当館で開催した貴重資料紹介展「上田にみる元禄時代」でも人気の高かった資料です。既に、国文学研究資料館によりマイクロフィルム化されていたものをデジタル化したため、全く原資料に負担を掛けることなく作業を進めることができました。また全ページを画像化し、利用者はネット上で、本のページをめくるように資料が閲覧できます。さらに、高解像度画像も選択できるので、利用者には十分満足していただけると思います。『東山道信濃国略図』は縦135.8cm×横222.4cmの彩色がほどこされた大変美しい地図で、その名のとおり信濃国全体が描かれています。絵地図が大きいため直接スキャナで取り込むことは避け、4×5のフィルムで分割撮影をし、それをデジタル合成しました。(なお、この撮影過程については、本ホームページ内で「デジタル東山道信濃国略図

図メイキング」という題で紹介していますので、ご覧ください。)

またデジタル画像は、FlashPix画像で掲載されており、利用者は思いのままに画像を拡大・縮小・移動しながら閲覧することができます。マイクロフィルムでは困難であったこうした閲覧方法は、今後の研究・教育方面に新たな可能性を与えるものと期待されます。

○特殊コレクションの目録提供

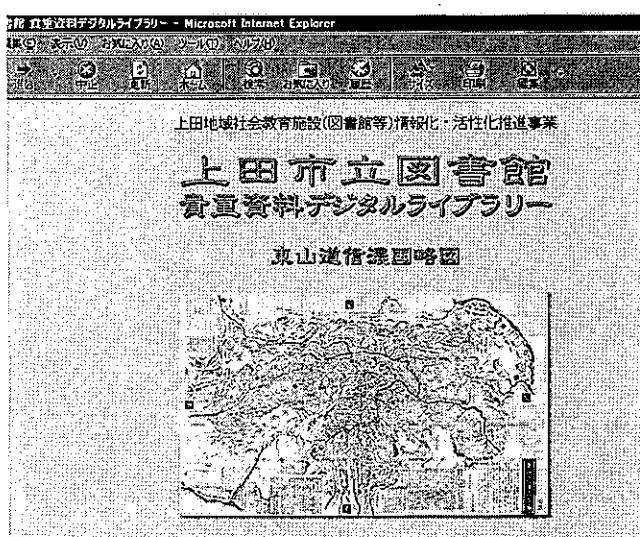
当館所蔵の特殊コレクションの一つ「花月文庫」は、江戸庶民文化を体験できる1万冊にも及ぶ貴重なコレクションです。全国各地から閲覧者が訪れ、上述の『御当代記』を始め、学会でも注目されている貴重な蔵書も少なくありません。にもかかわらず冊子体の目録は昭和44年の「花月文庫分類目録」の再版以来発行されませんでした。こうした状況の中、上田女子短期大学国文科の先生方の多大なる協力のもと「花月文庫分類目録」の見直しが行われ、目録をデータベース化し、インターネット上で公開できたことは、遠隔地からの照会、また冊子体の目録の不備を補う上でも十分な効果が期待されます。

○今後の課題

平成12年度も図書館資料充実事業の中で、上田地域の近代研究の宝庫と言われる「上田郷友会月報」や信濃日日新聞、北信毎日新聞の一部のマイクロフィルム化を実施しました。今後も引き続き、昭和初期の郷土の新聞のマイクロフィルム化、中性紙の箱や封筒による貴重資料等の劣化対策を図り、積極的に資料保存の環境整備を推進したいと考えています。

(上田市立図書館デジタルライブラリー

<http://www.echol.gr.jp> 図書係長 千野 敏幸)



上田市立図書館デジタルライブラリー「御当代記」

本城村役場史料の調査整理と保存 本城村誌編さん室(東筑摩郡)

村誌編纂が始まり、歴史部会の近世、近代、現代の調査員として資料収集を始めました。最初の仕事として、倉庫内に収蔵されていた村文書の閲覧を村にお願いし、平成4年4月より調査整理に入りました。

文書綴りが棚に天井までぎっしりと詰まり、床には足の踏み場がないほどに山積みに放り込んだという状態に、まずおどろかされました。文書は埃にまみれ、かび臭く、倉庫内に入るので二の足を踏む思いでした。足下の書類を踏み越え、埃を払い色の変わった明治時代の書類を探し出し、ついその内容に読みいつてしまい、調査員全員が臭さや埃ばさを忘れる一時もありました。

その後、各人が資料となる綴りを2、3冊ずつ編纂室に持ち帰り、内容調査に入りました。汚れている綴り一冊であっても、その時々の様子が記録されており、1冊見終わるのに時間がかかりました。

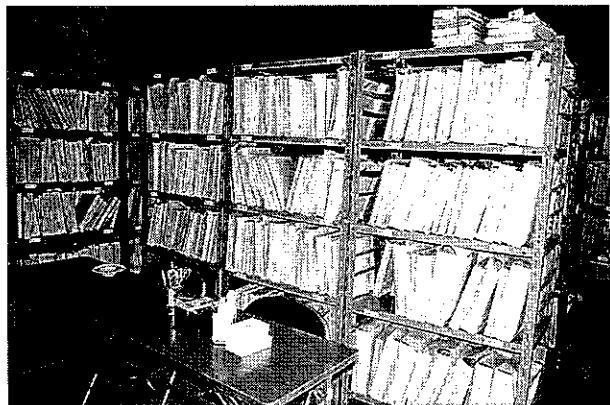
平成5年7月より、本格的な整理作業に取り組みました。倉庫2階(昔の有線放送室)を使用させていただく事とし、機械類、電話機の部品を整理し、調査室と致しました。

第一の作業工程として、倉庫内の通路の確保から始め、踏みつけられた書類から、資料とならない分を区分し、それらは村の許可を得て焼却処分をしました。雨漏りによる青かびで固まった書類もあって、一枚ずつ剥がしながらの作業はたいへんでした。



調査員によって、文書の整理、保存作業が進められる。

第二の作業は、すぐ必要な書類、次の調査にまわす書類、捨てるに惜しい書類、焼却書類と4つに区分しました。その区分も慎重に、皆で検討しながら作業を進めました。



整理されて、封書に入れられた文書群

第三の作業は、調査対象に上げた書類の分類作業(役場の課別)です。分類の終わった時点で内容調査と附箋つけをし、村誌執筆者の要望する資料をコピーして送る作業を進みました。また、執筆者にこれらの文書調査を依頼し、必要文書を写真撮影しました(平成11年度)。

第四の作業として、松本市文書館の役場文書整理方法の指導を得て、一点一点専用の封筒に年代、題名、内容を記入し、整理しました。あわせてカード作りもし、コンピューター記録にし、検索が早くできる作業をしています。

現在検索可能な役場文書は、明治期223冊、大正期118冊、昭和期(48年まで)1753冊、合計2094冊になりました。まだ、未調査、未整理の文書類がこれらの2倍以上あります。

これまでに調査した文書類の中には、明治の本城村内4か村の合併と分村の陳情書、鉄道誘致等、興味深い重要書類は多く残されていました。残念なことは、明治20年終戦前後の文書が少ないとことです。

村に残された文書の記録が、永い年月を過ぎる過程で、その時代時代の歴史として大切な記録となり得る事を痛切に感じます。長期間の単純な作業と調査にあたった我々は幸せでした。

(宮井 清)

行政文書の保存活動

行政文書は保存年限が満了すると、廃棄処分されるのが通常である。須坂市役所においても、毎年6～7月頃、1週間程度の期間を設けて各課総出で書庫整理を行い、保存年限が満了した公文書の廃棄が行われている。この廃棄される文書の中に地域を知る上で重要な資料も含まれており、このことを知った市内の郷土史研究家等より、数年前から調査の希望や保存を求める声が上がっていた。このため、平成11年度について書庫整理時に調査したところ、合併以前の町文書を含む多くの文書を処分されることが判明し、廃棄寸前に回収することとなった。そこで、他市町村の動き、とりわけ松本市文書館の発足等を参考にして、庁内で話し合いをもち、各課長あてに歴史資料保存を文書で通知し、協力を依頼した。

平成12年度から本格的に保存を進めることになったが、当市における歴史資料としての公文書の選別基準がないため、①昭和50年以前の文書（文書保存年限は関係なし）、②各課で参考としている資料（地図、写真、設計図など）で昭和50年以前のものとし、調査研究のため、幅を広く収集をおこなった。選別の際には、文化財担当職員が立ち会い、昭和50年以後の文書でも重要なものについては回収した。

また、収集については、書庫管理担当課との連携をしたため

須坂市教育委員会

円滑に作業を進めることができた。

収集した文書は分類を行い、目録を作成することとしているが、この目録作成には、歴史研究者をお願いし、表題目録だけでなく、件名目録も整備する予定である。また、来年度からは劣化状況の調査も行い、劣化がひどい文書については簡易の修繕も行う。この調査により今後の保存方法の基礎資料とする。

当面の保管施設として、平成9年に寄贈された製糸家の旧宅の建物を使っている。この建物には土蔵が2棟あり、その土蔵の状態も良好であるので、そこを利用し文書を保管できるように整備する予定である。（窪田潤一）



市役所より移された文書

役場文書の整理に着手

牟礼村役場文書の収納は、三つの離れた倉庫に分散収納されており、スペースは満杯で、古いものから廃棄を待つ状態が続いてきました。加えて、平成12年4月から文書公開条例が施行となり、文書のさらなる整理に迫られ、このため倉庫内の不用文書のいっそうの処分が要求されました。

これより先、村誌編纂中の平成8年頃から歴史資料として重要な文書の保存の必要性を通じて、一昨年頃から役場文書の選別整理について、歴史ふれあい館と役場総務課、教育委員会事務局が協議を進めてきました。

こうした過程の中から、昨年の秋思い切って役場文書の分別整理に重い腰を上げるべく、踏み切りました。「もうこれ以上は待てない！」といった心境で、歴史ふれあい館が主導して大仕事に取り組みを始めました。

12年度補正予算で協力員の人事費を若干認めもらい10月から着手しました。協力作業員は、役場OBを中心に5人に依頼し、月3回（本年からは週1回）の予定で進めています。

むれ歴史ふれあい館（上水内郡）



協力員の選別作業状況

整理の方針としては、①昭和30年以前の旧村文書は全部保存とする、②それ以降の文書は「廃棄・保存の基準」を決める。この基準は他の先進地の基準を学びながら、協力員が実務を通じ、協議の中から課目別に基準を作成することとしています。保存すべきとした史料は目録をつくり、将来閲覧できる準備をし、当面整理した史料は、村有のいくつかある倉庫の空き部屋に収納し、将来専用施設の確保につなげたいと考えています。各位のご指導をお願いいたします。

（館長 町田清司）

長野県史料保存活用連絡協議会 会報

事務局 長野県立歴史館 文献史料課
長野県更埴市屋代清水260-6
電話 026-274-2000
Fax 026-274-3996

届けよう 史料を未来へ！
広げよう 史料保存の輪！

お知らせ

平成13年度の事業計画については5月の総会でお知らせしますが、今から予定しておいてぜひご参加ください。

◇平成13年度長野県史料協総会

5月 上田市マルチメディアセンター

◇全史料協第27回全国大会 長野大会の開催

期日：平成13年11月7、8、9日（水～金）

場所：大会会場 長野市ピックハット若里ホール、
長野県社会福祉総合センター

内容：研修会、研究会（全体会・分科会）

このほか観察（9日）があります。

史料保存のコツ1 接着剤は何を

☆接着剤を選択する上で考慮することは？

接着剤そのものが安定していて変質しにくく、接着剤を使った周囲への影響が少ないものが望ましい。接着の効果が長持ちしないものや、長い間に変色してしまい、接している紙まで変色させてしまうようなものは不適当である。

箱の組み立てなど、資料に直接ふれない箇所で使用するならPVA（ポリビニルアセテート、いわゆる白ボンド）が使える。ただし、この接着剤は一度乾いてしまうと水に溶けにくくなり、将来再び補修が必要になったときに作業を難しくしてしまうので、永く保存する資料の補修には不適当である。

『容器に入る一紙資料のための保存技術』

日本図書館協会、1991、p67

・市販の接着剤は酸性のものが多いので、注意が必要である。

☆どんな接着剤がお勧め？

カルボキシメチルセルロース(CMC)をお勧めします。

商品名としては、セロゲン3H(第一工業製薬)です。

☆セロゲンとは

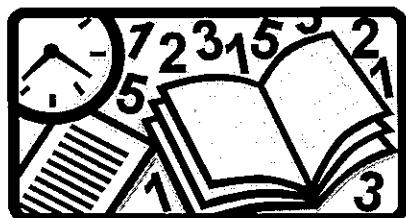
Sodium Carboxymethyl Cellulose

化学名 カルボキシメチルセルロースナトリウム

第一工業製薬株式会社（以下同社カタログ参照）

特長

- 1 冷水、温水のいずれにも容易に溶け、ネバネバとした溶液をつくります。
- 2 粘度の経日変化がほとんどありません。
- 3 強くて透明な被膜をつくり、接着作用があります。
- 4 天然糊剤に比べて腐食しにくいです。
- 5 油、グリース、有機溶剤に溶けません。
- 6 生理的に無害です。
- 7 品質が一定・均一で、しかも高純度品が得られます。
- 8 中性です。
- 9 剥離が容易なため、可逆性があります。



工業用ですので、史料協会員の多数のご希望で分割販売をしたいと考えております。セロゲンの詳細については、事務局までご相談ください。